

## メキシコ便り

メキシコ・ハリスコ州家畜衛生診断技術向上計画 チーフアドバイザー 山本孝史

私は、メキシコ・ハリスコ州の州都グアダハラにあるエル・サルトラボで実施されている「メキシコ・ハリスコ州家畜衛生診断技術向上計画」のチーフアドバイザーとして、2003年11月未より現地に赴任しております。わが国とメキシコでは、昨年（2004年）9月FTAが締結され、メキシコから今年は3万8千トン、4年後には8万トンの豚肉が輸入されるようになりますので、本誌読者の中にもメキシコという国に関心をお持ちの方がおられるかも知れません。「敵を知り己を知らば・・・」の諺ではありませんが、メキシコの養豚について知りたいとお考えの向きもいらっしゃるでしょう。しかし一口にメキシコの養豚といっても、日本に輸出しているような米資本系の企業養豚から庭先養豚まできわめて多様です。私が勤務しておりますエル・サルトラボは、ハリスコ州にあり、同州は生産高約20万トンで国内生産高の1/5を占めメキシコ第1位ですが、現在日本には輸出しておりません。すなわちメキシコの養豚では、日本に輸出しているような母豚何万頭といった企業養豚は特殊な例であり、大部分はハリスコ州にみられるような母豚50-150頭の中規模養豚が主体です。またメキシコは、飼料は米国からの輸入に頼っておりますし、豚肉そのものも国内生産100万トンに対し、30万トンも輸入しております。このようなメキシコ養豚の大部分を占める農場につきましては、わが国と大同小異で特にお伝えすることはありませんし、皆さんが最

もお知りになりたいわが国に輸出している企業養豚については、残念ながらいまもって見学できないのが実情です。特に米国国境に近いメキシコ北部ソノラ州は、対日輸出の90%を占めており、一定の基準に達している豚肉に対してSSPF (Sonora Safe Pork Farms)というわが国のSPFと紛らわしい名前の認証制度を実施していることもあり、是非見学したいと思っておりますが、ガードが堅くメキシコ政府関係筋を通じてのアプローチは成功していません。

このようなことから、本稿はメキシコでの日常生活をレポートすることにより、異文化理解の一助にでもなればと考えて書かせていただくものであり、養豚関係のレポートではありませんので、ご了承下さいますようお願い致します。ソノラ州の養豚につきましては、情報が得られ次第ご報告致したいと思います。

### 国土と気候

メキシコは、メキシコシティを含む32の州からなる合衆国ですので、正式にはメキシコ合衆国 Estados Unidos Mexicanos といいます。豊富な資源に恵まれています。ちなみに産油国でありながら、ガソリンの値段が高い（ハイオク75円/L）のは、国営の「メキシコ石油公団 Petrolios Mexicanos: PEMEX」がガソリンスタンドを独占しているからです。サービスも悪く、窓ふき、おしぼりなど逆立ちしても期待できません。勘定がし易いよう

に200ペソ分入れてくれというように注文できませんが・・・。

メキシコは、国土面積196.4万平方キロメートルで日本の5倍強、人口1億3千万人で日本とほぼ同じです。日本の人口の一割が東京に集中している以上に、メキシコは、約2,000万人が首都メキシコシティに集中しています。国土は、北緯15度から33度、西経87度から117度まで広がり、また海拔0mから3,500mまで分布していますので気候は多様です。首都のメキシコシティやわがプロジェクトサイトのあるグアダハラは、「中央高原地帯」に分類され、いずれも南回帰線に近いのですが、前者が海拔2,200m、後者は1,600mの高地に位置するので年間を通じ気候は温和で、5～10月の雨期と11～4月の乾期に分かれます。雨期には夕方から夜間にかけてスコールが襲い、あつという間に道路が冠水することもまれではありません。スコールによる停電も1シーズンに何回かあります。しかし昼間スコールが来ることはまずありません。帰宅途中で道路が冠水するようなスコールに遭遇すると、ギアをセカンドにしてエンジンを高速回転させながら運転しないとマフラーに水が入り込み、運転不能になると教えられています。幸い筆者はまだマフラーまで浸水するほどの冠水に出くわしたことはありませんが、マフラー直下というのは、何度か経験しました。

観光地として日本でもよく知られているカンクン等のメキシコ湾に面する低地は一般的に高温多湿で雨量も多いですが、カリフォルニア半島および北部諸州では雨量はきわめて少なく、高温乾燥地帯であり、半砂漠的な地帯が多くなっています。このため、日本への豚肉輸出の90%を占めるソノラ州の養豚場の糞尿処理はきわめて簡単とい

う話を聞いたことがあります、現場を見ていないので真偽のほどはわかりません。

## 大気汚染

私が初めてメキシコに来たのは、1982年7月、メキシコシティでInternational Pig Veterinary Society Congress (IPVS) が開催された時でしたから、今から20年以上前のことになります。当時印象深く未だに記憶に残っていることがいくつかありますが、まずはシティのスモッグのひどさでした。都市交通網があまり整備されておらず、自動車に頼りきっていることとその自動車の排ガス規制が甘いことが原因です。当時シティから数十キロ離れた処にある「メキシコ家畜疾病中央診断施設」で豚コレラワクチン製造のJICAプロジェクトが実施されていたのですが、その施設を見学した帰途、峠の上からシティを眺めるとシティが黒い雲ですっぽり覆われていたのですが、それがスモッグでした。その後、排ガス規制が強化され、現在は随分軽減されたとのことですが、それでも未だに相当なモノです。グアダハラも大気汚染は相当ひどいようです。小生が毎日通勤につかっている環状道路は、地域によってはスモッグと塵埃が立ちこめています。特に乾期がひどいようです。筆者は、日本では肺ガン検査をしようとしても、たばこをやめてからは検体が採取できないほど痰とは縁がなかったのですが、こちらでは毎朝相当量採取できます。この大気汚染と湿度不足、および低温、といっても通常室内の温度が15℃以下になることは滅多にありませんが、日較差も大きいことが影響してか、乾期にはラボでも風邪を引くヒトが大変多いです。「呼吸器病に乾燥と低温は禁物」ということを実感しています。小生は加湿

器、温風ヒーターそれにビタミンCの大量摂取のお陰でこちらでもほとんど風邪を引きません。

## 気 圧

前述のように、メキシコは海拔0～3,500mに分布していますが、人口の20%近くを占めるメキシコシティや、メキシコシティに次ぐ第2の都市であるワグアダハラ等は、高地にあります。やはり前述のIPVSで初めてメキシコシティに来た夜、ホテルでスーツケースを開けたとき、スーツケースの隙間を埋めるために入れておいた空気枕の親玉がパンパンになっていました。日本を発つ時は、半分くらいしか空気を入れてなかったのでおかしいなと思ったのですが、それが気圧の差によるものと気づくまでしばらくかかりました。今回、グアダハラに赴任してくるとき、出汁用に鰹節の真空パックを何袋か持ってきたのですが、これもはち切れんばかりになっていました。またメキシコシティで足早に歩いたとき、異様に動悸が激しくなったことを経験してからは、ユックリズムに徹しています。若い人ならいざ知らず、小生のような年寄りに無理は禁物です。マラソンの高地トレーニングというのはやはり有効なのでしょう。

グアダハラでは、ふつうの鍋でかろうじてお米が炊けますが、あまりおしくありません。グアダラハラの標高から沸点を計算しますと、約95.6℃でかなり低いことがわかりましたので、試しに圧力鍋で炊いてみますと、これが同じ米かというほどおいしく炊けることに驚きました。以後、1週間分を圧力鍋で炊いて、一回分宛冷凍しておき、その都度レンジで解凍して食べています。

## 通貨・物価

通貨はメキシコペソで、1ペソ11円くらいの換算レートになります。メキシコでは「円」は通用しないと考えていた方が無難です。これも20数年前の経験ですが、米ドルを持たずに来てひどい目に遭いました。銀行の本店に行かなければ現地通貨と両替できなかつたのです。その後90年代はじめにデノミが行われ、現在のペソとなったのですが、事情は現在も同じです。われわれは、米ドルをペソに換えて生活していますので、為替相場により損をしたような気分になったり得をしたような気分になったりしています。余談ですが、こちらの銀行では客より銀行員の方が威張っています。丁寧で親切な（表向きだけかも知れませんが）日本の銀行員の対応に慣れた身にはカッとすることがままあります。われわれは、現地の銀行にドル口座を開設しており、自分で自分宛に小切手を振り出して現金化しているのですが、銀行員によっては換金してくれないことがあるのです。理由はパスポートでは身元が確認できないということなので、「何故パスポートで身元確認できないのか」と聞きますと、「これは日本のパスポートであり、メキシコのではない」と言われ、思わず「おまえアホか」と日本語で言った途端に筆者はキレてしまい、日本語でわめきちらしましたが、相手は知らん顔。不思議なのは、いつも換金してくれている行員が隣にいるにもかかわらず、一言も何にも言ってくれなかったことです。個人主義が徹底しているのかも知れませんが、組織として機能していないと言った方が当たっていると思います。

物価は当たり前ですが、安いものもあれば高いものもあります。概して食料品は安いです。

表には載せていませんが、彼らの主食であるトルティージャ（トウモロコシで作った餃子の皮の親玉）は、1kgあたり20円くらいです。高いものとしては、われわれに直接関係しているものの中では、コンピュータ関係のものが筆頭です。衣類もあまり安くなく、品質もよくありません。小生が行く床屋はカットだけですが、300円でチップを

50円渡しています。10分くらいで終わりますので、床屋嫌いの筆者には快適です。ただ、毎回従業員が変わるのが難点です。「次回もこのコにやらしてもらおう」と思っても、今までいた試しがありません。クリーニングは日本と同じくらいですが、アイロン掛けだけ頼むと、ワイシャツ6枚で350円くらいですから安い（次号へ続く）。

表1 主な食料品の値段

種類	品目	メキシコ	日本
肉類	豚ヒレ	700	2,500 (円/kg)
	豚モモ	770	2,000
	牛ヒレ	1,400 - 1,800	5,000
	牛モモ	600	3,000
	鶏 手羽元	290	1,000
	モモ	200	1,500
	卵		120 - 200 (円/10個)
野菜類	米	110 - 140	400 (円/kg)
	タマネギ	140	300
	ニンジン	100	300
	ジャガイモ	220	250
	ネギ	55	50 (円/本)
	トマト	100	100 (円/個)
	ブロッコリー	175	100 (円/個)
果物類	アボカド	210	500 (円/個)
	オレンジ	50	100
	グレープフルーツ	70	120
	リンゴ	250 - 290	40
	マンゴ	260 - 400	400 - 500
アルコール	ビール 330ml 缶	80	200円/350ml
	ウイスキー		
	ジョニ赤 Jack Daniels	2,100 2,500	2,100 2,500